

## 平成24年雲南市議会6月定例会

### 市長施政方針（概要）

平成24年雲南市議会6月定例会の開会にあたり、市政における私の基本的な考え方を申し上げたいと存じます。

始めに、**尾原ダム事業**についてであります。

平成3年に工事着手しました尾原ダムは、今年3月31日付けで建設事業が完了し、本格運用が始まりました。

半世紀以上の歳月を費やし、この事業により、生まれ育ったふるさとからの移転を余儀なくされた多くの皆様の苦渋の決断と、工事と隣接して日々を過ごされた尾原地区の皆様のご理解、そして地元温泉地区の皆様のご協力に衷心より敬意を表し感謝申し上げます。

折しも今年は、昭和47年災害から40年を経過した年であり、島根県政百年の大計である斐伊川・神戸川水系治水事業を考える集いが、去る5月20日には国土交通省により行われました。

また、6月3日には国土交通省主催による竣工式典に引き続き、奥出雲町との共催による祝賀会が、多くの方々にご臨席を賜り、開催される予定です。

今後は、直下流の尾原地区の皆様をはじめ、市民の皆さまが安全かつ安心して暮らせる生活環境の確保はもちろん、尾原ダムとさくらおろち湖を貴重な観光資源・交流の拠点と位置付け、住民主体により継続的に地域づくり活動が展開されるよう、国、県、奥出雲町と連携して支援して参ります。

続いて、**春の叙勲**についてであります。

木次町いのうえひろゆきの井上裕之様が保健衛生功勞により旭日双光章の榮に浴されました。井上様は、(社)島根県歯科医師会理事を歴任されるなど歯科医師として長年にわたって、県民の医療と福祉の向上に尽力されました。

また、加茂町ほそかいまさゆきの細貝正幸様が地方自治功勞により旭日単光章の榮に浴されました。細貝様は、加茂町代表監査委員として長年にわたり、加茂町の財務事務及び経営管理の公正・合理的かつ効率的な運営に尽力されました。

皆様の長年の取り組みとご功績に敬意を表し、受章のお慶びを申し上げますとともに、今後とも、健康に留意され、ご活躍されますことを心より祈念いたします。

### 【地方行財政の動向】

去る4月27日の地域主権戦略会議において、出先機関改革の基本構成案が決められ、当面、地方整備局など3出先機関を対象に、原則、丸ごと「特定広域連合」へ移管する原案が了承されました。

これに関して、5月に開催された中国市長会において、権限、財源の移譲内容を明確にすることや、大規模災害時などにおける出先機関の機動力、迅速性、専門性などの機能が是非とも担保される必要があるとして、出先機関の廃止にあたっては

市町村の意見を考慮するよう求める特別決議が採択されました。

このように、目まぐるしく変化する状況において、地方自治を守る立場での確に  
対応していくことが必要であると存じます。

その一つが、合併10年後からの地方交付税の削減への対応です。去る5月9日  
に雲南市の呼びかけにより、岡山県真庭市、美作市、広島県安芸高田市の4市によ  
り『交付税制度研究会』を発足させました。雲南市のように中山間地域の小規模自  
治体が多数集まり誕生した自治体においては、現行の地方交付税算定では行政運営  
の実態を捕捉しきれないとの考えから、同様の自治体に呼び掛け、調査・研究に着  
手しました。今後は、行政需要の実態に見合う地方交付税の算定制度への変更の要  
望をまとめ、地方交付税法の定めるところにより、国に対して意見提出していく考  
えであります。

一方で、引き続き算定特例について、10年経過後も当分の間現行通りとするよ  
う要望して参ります。

また、本年度から過疎債ソフトの発行限度額について最大2倍まで要望できるこ  
ととなりました。

雲南市においては、この過疎債ソフトを積極的に活用することとし、既存事業の  
見直しを行うとともに、新たなソフト事業を展開します。さらに、「安心・安全」  
なまちづくりに向け、道路・河川・公共施設等のきめ細やかな修繕を一層進めるほ  
か、昭和56年5月以前の旧耐震基準で建築された住宅の耐震化を目的とする住宅  
改修や、既存住宅のバリアフリー化及び下水道接続に伴う住宅改修の促進に取り組  
むことといたしました。また、「活力と賑わい」のあるまちづくりに向け、地域農  
業の主要な担い手である認定農業者の経営の安定化と地域農業の維持、耕作放棄地  
の発生防止のため、また、米の需給調整の円滑な推進のため、認定農業者の機械施  
設の整備・更新の支援制度を創設することとしております。

## 【6つの施策】

### 1. 市民が主役のまちづくり

#### ①雲南市名誉市民顕彰式典

本年3月市議会定例会におきまして坂本精志様、佐藤忠吉様を名誉市民として  
推挙することに同意をいただきました。これを受けまして、来る7月1日に雲南  
市木次経済文化会館にて名誉市民称号の贈呈並びに顕彰式典を開催することに  
いたしました。

#### ②市民が主役のまちづくりの推進に向けた制度見直し

本年度から、より自由度の高い地域自主組織に対する交付金は、全ての地域か  
ら事業計画が提出されました。また、新たに設けた集落支援員は、24地区に配  
置されるなど、新たな地域づくり支援制度は順調に始まったところです。

去る6月6日には、大東町の久野地区振興会の「かみくの桃源郷」における環  
境整備活動が認められ、長崎市で開催されました「土砂災害防止全国の集い」で、  
国土交通大臣表彰を受賞されました。

こうした取り組みをより一層充実していく必要がありますが、地域自主組織の活  
動拠点として設置した交流センターは3年目の検証時期を迎えたほか、町単位で設

置している地域委員会については、制度見直しを求める意見が多数寄せられています。こうしたことから、地域自主組織の支援強化や地域委員会の見直しに取り組むため、5月から庁内に横断的な組織体制を設け、本格的に検討を開始したところです。

### ③定住施策推進に向けた取り組み

地方や地域貢献に関心をもつ若者の移住促進を図るため、本年度より新たにIターン人材を活用し、移住支援コーディネーターを配置したところです。移住者のネットワーク化を図るとともに、ブログやフェースブック等を活用し、「雲南暮らしの魅力」を全国に発信して参ります。

また、本年度より新たに、地域自主組織に呼びかけ、空き家情報の収集などを担う定住協力員の配置を推進しております。現在21地区で配置いただいております。今後更に連携を深め、地域と一体となった定住推進を図って参ります。

## 2. 定住環境の充実

### ①原子力災害広域避難計画の策定

去る2月に、島根原子力発電所から30キロメートル圏外への広域避難については、関係自治体で構成する原子力防災連絡会議において避難先の割当案が示され、雲南市は、広島県内の三次市や三原市、東広島市、竹原市などの地域が割り当てられたところであります。今後、島根県と広島県との調整を経た後、避難先の関係市町と直接協議し、避難先を決定します。並行して島根原子力発電所周辺自治体と広域避難計画の調整作業を行い、年内を目途に暫定計画としてとりまとめることとしております。

### ②レジ袋削減推進の取り組み

地球温暖化の防止と循環型社会の形成を目指し、市民団体や事業者の皆様と共にレジ袋削減のための協議を重ね、今年2月には雲南市レジ袋削減推進協議会を設置し、具体的な計画を策定しました。先般5月22日にはレジ袋の無料配布中止への取り組みにご賛同いただいた市内7事業者11店舗の皆様、雲南市レジ袋削減推進協議会及び雲南市の三者による協定書を締結いたしました。

これにより、9月1日から雲南市内でもレジ袋の無料配布中止の取り組みが行われることとなりました。

### ③雲南市地域活性化施設建設

この施設は、4月20日に国土交通省から許可のあった地域活性化インターチェンジに建設し、本年度中に予定される中国縦断自動車道尾道松江線三次ジャンクションから吉田掛合インターチェンジ間の供用開始に合わせオープンできるよう整備を進めて参ります。一方、この施設が高速道路から利用できる道の駅としての登録を目指しており、今後、道の駅の名称を検討すると共に登録手続きを進めて参ります。

なお、本年度、有料区間に整備される加茂岩倉パーキングエリアにつきましても、雲南市の情報発信ができるよう道路管理者である西日本高速道路株式会社と協議

を行なって参ります。

#### ④市民バス路線の再編

本年度は、平成23年度に策定した「市民バス再編計画」に基づいた諸準備に取り組んで参ります。

広域路線バス「吉田大東線」は、複雑な運行経路を簡素化し、午前中に通院や買い物が出来るなど、利用者の利便性向上が図れるよう乗降調査等を行いながら見直しを進めます。また、大東及び三刀屋地域での小型バスによる予約型運行の導入に向けた計画策定や住民説明などに取り組み、早期に実証運行に取り組めるよう進めて参ります。

### 3. 安心安全のまちづくり

雲南市立病院につきましては、開院以来雲南医療圏の中核病院として、住民の生命と健康を守るため、その役割を担ってきました。

しかしながら、市立病院の主要な施設である西棟は、建築後45年が経過し老朽化が進んでおり、本年度より新棟建設及び施設の一部建て替えに向けた基本構想策定に着手いたしました。策定にあたっては関係医療機関等で構成する雲南市立病院建設検討委員会を設置し、先般初回会議で役員選出やスケジュール等の確認を行い、今後幅広いご意見を拝聴しながら基本構想を策定して参ります。

### 4. 人が輝く教育・文化の振興

#### ①幼保一体化の取り組み

雲南市の就学前の教育・保育の一体化に向けた取り組みのモデルケースとして、木次保育所と木次幼稚園の一体化について、検討に入ることといたしました。子どもへの健全な成長を促す、良質な環境を保障するとともに、質の高い教育・保育の一体的な提供、保育サービスの更なる充実に繋がるよう努めて参ります。

#### ②「夢」発見プログラムの推進

雲南市の誇るキャリア教育推進プログラムであります「夢」発見プログラムを、引き続き推進して参ります。本年度は、中学生が大学生等と語り合うことによって、将来に希望を持ち、それに向かって果敢にチャレンジする「主体性」を引き出す取り組みを地域・学校と連携し、加茂中学校ほか2校において夏季休業中に実施いたします。

#### ③新任の国際交流員の着任

韓国出身の国際交流員許景蘭（ホ・キョンラン）さんが3月をもって退任し、去る4月13日、韓国ソウル市出身の李在鎭（イ・ジェジン）さんを迎えました。李交流員には、早く雲南市での生活に慣れていただき、積極的な交流活動の展開を期待しています。

#### ④青少年海外派遣等交流事業

昨年度は韓国清道郡（チョンドグン）と初めて青少年の相互交流を行いました。本年度はアメリカ合衆国インディアナ州リッチモンド市へ、8月8日から17日の10日間、中高生7名の派遣を計画しております。派遣先では、ホームステイや市民との交流、日本文化の紹介などを通じて、異文化に直接触れる貴重な経験を積むとともに、日本を再認識する良い機会を得ることができると期待しております。

## 5. ふるさと産業の創出

### ①森林バイオマスエネルギー事業の取り組み

森林バイオマスエネルギー導入にあたって、吉田・掛合町をモデル地区として、市民参加による林地残材の収集・運搬を行う「市民参加型収集運搬システム」の参加者を募集するとともに、「地域通貨」の名称や取扱店の募集など、6月下旬からの本格的な事業実施に向け準備を進めているところです。

また、こうした「市民参加型収集運搬システム」の実施や「地域通貨」の発行、木質チップなどバイオマス資源の供給などを担う森林バイオマスエネルギー供給事業体「合同会社（仮称）グリーンパワーうんなん」が、森林組合などを構成メンバーとして、来たる6月15日に設立されることとなりました。今後、この事業体を核に森林バイオマスエネルギー事業の本格的な推進を図って参ります。

### ②奥出雲薔薇園

奥出雲薔薇園については、運営主体である(有)フレグランス・ロゼの方針により去る3月31日をもって事業からの撤退となったところであります。

今回の事業撤退については、(有)フレグランス・ロゼにおいて低迷する経済情勢を背景に、新たな商品開発や販路拡大が思うように進まなかったことや、研究開発に向けて経費の圧縮を図る必要性が生じたことが要因と認識しております。市としましては、基盤整備をはじめ新たな商品開発や販路拡大に係る支援策など、当初計画に沿って事業が進むよう支援、協力を努めてきたところであり、今回の事業撤退は誠に遺憾であります。

薔薇園跡地の今後の利活用方策については、地元の関係者の皆様など各方面と協議・検討を行って参ります。

## 6. 行財政運営

### ①市役所新庁舎建設

雲南市新庁舎建設基本計画について、パブリックコメント制度により、防災対策や液状化対策、あるいは将来的な維持管理や市民検討委員会等へのご意見、また、豊富な森林資源の活用や地元経済へ寄与する手法の採用など、多岐にわたるご意見やご提言をいただいたところであります。

なお、この基本設計の受注者選定につきましては、公募型プロポーザル方式とし、設計実績等の一定の条件を満たす代表企業1者と、地元業者1者により構成された設計共同企業体による受注方法といたしております。

### 補正予算の主なもの

- ・ 道路・公共施設等のきめ細やかな修繕事業 5 千万円
- ・ 住宅改修促進事業関連補助金 3 千万円
- ・ 認定農業者ステップアップ支援事業補助金 1 千万円
- ・ 障がい児等保育対策事業 2 千 4 百万円
- ・ がんばる地域応援総合事業 2 千 3 百万円
- ・ 新産業創出支援事業補助金 9 百万円
- ・ 市民バス運行事業 9 百万円

今定例会には、議案として、条例 7 件、一般事件 1 件、諮問事項 1 件、報告事項 1 0 件を提出しております。